令和６年度

教職経験６年目研修の手引
（教諭）

問い合わせ先

島根県教育センター　企画・研修スタッフ

〒690-0873 松江市内中原町255－1

TEL (0852)22-5853 FAX (0852)22-5581

島根県教育センター浜田教育センター　研究・研修スタッフ

〒697-0023 浜田市長沢町1550－1

TEL (0855)23-6782 FAX (0855)23-5059

島根県教育委員会

島根県の教職員として求められる資質能力

教職員として求められる資質能力は、普遍的でいつの時代にも求められるものと、時代の変化に対応してその時代時代に求められるものとがある。社会の変化や時代のニーズに応える学校教育の実現には、教職員の職務に応じた資質能力の向上が不可欠である。職務に関わる専門的知識・技能の他、様々な課題に対応するための実践的指導力の向上を図るためには、常に探究心を持ち自主的に学び続ける力が求められている。また、学校組織の一員としてのコミュニケーション能力、他者と連携・協働する力も大切である。
そこで、島根県の教職員として求められる資質能力を次のように定める。

島根県の教職員として求められる資質能力

- ○ 豊かな人間性と職務に対する使命感
- ○ 子どもの発達の支援に対する理解と対応
- ○ 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度
- ○ 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力
- ○ よりよい社会をつくるための意欲・能力

キャリアステージに応じて求める姿と育成する資質能力

【採用までに身に付けておいて欲しいこと】

新規採用された段階。教職課程認定を受けた大学等、養成段階での学修等を通して、教育職員として勤めるための素養や基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていることが必要である。

【自立・向上期（1～5年目）】

新規採用時からおよそ5年目までの5年間の期間にあたり、教育職員として授業や学級経営等の実践的指導力を身に付けて自立し、向上心を持って成長していく基盤を固める期とする。

【探究・発展期（6～15 年目）】

およそ6年目から 15 年目までの 10 年間の期間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

【充実・円熟期[前期]（16 年目～概ね 25 年目）】

経験 16 年目以降から概ね 25 年目の期間にあたる。教育職員として様々な教育実践を重ねることで教科等の専門的知識及び技能を高めるとともに、主任やミドルリーダーとしての自覚や責任を持って教育活動を円滑に進める資質能力を高めていく期とする。

【充実・円熟期[後期]（概ね 26 年目以降）】

概ね経験 26 年目以降の期間であり、経験豊富で知見があるベテラン層の年代にあたる。教育職員として教科等の専門的知識及び技能をさらに高めていきながら、学校運営にも積極的に参画し、後進にも適切な助言を与えるなど人材育成を図っていく期とする。

島根県公立学校教育職員の育成指標

「島根県公立学校教育職員人材育成基本方針」
～学び続ける教育職員を目指して～

教諭等の育成指標

令和５年３月　島根県教育委員会

資質能力＼キャリアステージ		採用までに身に付けておいて欲しいこと *2	自立・向上期（1~5 年目）	探究・発展期（6~15 年目）	充実・円熟期（16~概ね 25 年目）【前期】 *3	充実・円熟期（26 年目以降）【後期】
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	①人間理解・人権意識	・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。				
	②職務に対する誇りと責任	・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感を持ち、自分の将来のキャリアや求められる役割を意識しながら、変化に応じて常に学び続けようとしている。 ・危機管理の知識や視点を持ち、教育活動における事故・災害等に普段から備えている。 ・関係法の理念を十分理解し、教育職員等による児童生徒性暴力等を断固として許さず、子どもの尊厳を保持しようとしている。				
	③ふるさとを愛する心	・地域の自然・歴史・文化・伝統を理解し尊重する態度、ふるさとを愛する人材育成への意欲を有している。				
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応 ＊1	④生徒指導の推進	・発達段階を踏まえた子ども理解・子ども支援、キャリア発達など生徒指導に必要な基礎理論・知識を習得している。	・子どもとのふれあいや観察を通して、様々な行動の内に潜む微妙な心の動き、キャリア発達を共感的に受け止め、良さや可能性を伸ばしながら、学級等の集団づくりを進めることができる。	・子どもの心身の発達やキャリア発達に対する理解を深め、個に応じた指導や学年等の集団指導を実践することができる。	・キャリア発達の視点をふまえ、教職員と協働したり地域社会や外部機関と連携したりしながら、さまざまな場面をとらえて子どもが自分らしい生き方を実現するための力を育成することができる。	・子どもに関わる様々な問題やキャリア発達への対応力を身に付け、学校の教育活動全体を通した連携体制をつくりながら、子どもの自己実現の達成をめざして支援していくことができる。
	⑤特別支援教育の推進	・特別な配慮や支援を必要とする子どもへの指導に関する基礎理論・知識を習得している。	・特別な配慮や支援の必要な子どもの実態把握を行い、一人一人のニーズに応じた指導や支援についての計画を立て、実践することができる。	・特別な配慮や支援の必要な子ども一人一人の支援計画・指導計画に基づき、学習上・生活上の支援の工夫、指導の実践を行うことができる。	・特別な配慮や支援の必要な子どもに組織的に対応するための知識や方法を身に付け、家庭や地域等と連携することができる。	・校内での支援体制の構築や関係機関及び異校種等との連携など、特別支援教育を組織的に推進することができる。
			＜全キャリアステージに共通した指標＞ ・インクルーシブ教育システムの理念、授業のユニバーサルデザイン化、合理的配慮の提供に関する考え方等を踏まえて、教育活動を実践することができる。			
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	⑥教科等の指導に関する専門性	・教育課程の編成、教科等の指導方法に関する基礎理論・知識を習得している。	・教科等を学ぶ意義を踏まえて指導計画を作成し、教科等の指導を実践することができる。 ・子どもの心身の発達や学習過程に関する理解に基づいて、興味・関心を引き出す教材研究をしたり、学習者中心の授業となるよう工夫したりすることができる。	・教科等の専門的知識及び技能の習得に努めるとともに、カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その視点をふまえて教科等を相互に関連させながら協働して授業研究を行うなど意欲的に教育実践に取り組むことができる。 ・子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業を行うことができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度を高め続けることができる。 ・教科等の相互関連や学校段階間の円滑な接続を意識した教育実践を 行うことができる。 ・校内研修の中心的な役割を担うことができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度をさらに高め、後進に適切な助言を与えながら、人材育成に取り組むことができる。
	⑦ＩＣＴや情報の利活用＊4	・ＩＣＴを活用した授業デザインを実現するための、ＩＣＴ活用に関する基礎的な知識（情報モラルを含む）や基本的な技能を有している。	・今まで学んできた ICT 活用や教育データ活用に関する基礎的基本的な知識・技能を教科等の指導や校務に積極的に取り入れながら活用することができる。	・教育データを整理・分析し適切に業務に取り入れながら、ＩＣＴをより効果的な形で活用することができる。	・時代に即応した知見を取り入れつつ、さらに専門性の向上をはかりながら、同僚と連携・協働し、校内に広めていくことができる。	・校務の情報化の推進に積極的に参画するとともに、後進に適切な助言を与えながら育成することができる。
			＜全キャリアステージに共通した指標＞ ・学校におけるＩＣＴ活用の意義を理解し、教育活動の中で効果的に活用するとともに、他の教職員と共有し広めていくことができる。 ・子どもの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための授業実践を行うことができる。			
	⑧社会の変化への対応	・新たな学びや教育課題に対して、積極的に挑み試行錯誤しながら粘り強く取り組む意欲や探究心を有している。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を具体的に考え取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を提案し、協働して取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、長期的な見通しをもって組織的に取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、より幅広い視点に立って自分自身をさらに向上させていくことができる。
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	⑨学校組織マネジメント	・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している。	・学校教育目標に沿った自己目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。	・組織の一員としての役割を理解し、学校の課題に対応することができる。	・スクールリーダーとしての自覚や責任を持つとともに、企画力や調整力を発揮して教育活動を円滑に進めることができる。	・学校教育目標の達成を目指し、学校の運営・指導体制構築に積極的に参画することができる。
	⑩他者との連携・協働	・集団で活動する際、自己を成長させようとする意欲や態度を有している。	・他の教職員の意見を活かしながら、自らの役割に応じて行動することができる。	・経験豊かな教職員から多くのことを学ぶとともに、同僚と連携・協働しつつ、後進に助言を与えるなどして育成にも目を向けることができる。	・他の教職員の役割分担や業務の進捗状況を把握・調整しながら、相互に支えあう体制づくりができる。	・職場の同僚性が発揮できるような雰囲気づくりをするとともに、後進を育成する観点を持ちながら組織を動かしていくことができる。
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	⑪地域資源の活用と地域貢献	・学校教育活動を通して、地域社会に貢献することについて、自分なりの考えや意欲を有している。	・子どもと地域社会をつなごうとする意欲を持ち、地域と連携した学校教育活動を計画に基づいて実践することができる。	・学校外の様々な地域資源や機会を活用し、地域と連携した学校教育活動を効果的に実践することができる。	・地域にある他の学校および幼児教育・保育施設や行政との連携・協働について、円滑な接続を意識しながら企画力や調整力を発揮して、主体的・組織的に実践することができる。	
	⑫合意形成に向けた議論の調整・促進	・子ども同士の話し合いの場面において、適切に働きかける力を有している。	・子ども同士が協働し、探究していく活動を円滑に実践することができる。	・現実の社会や地域との関わりを意識しながら、子ども同士が議論をしたり、合意形成を図ったりするよう促すことができる。	・地域課題解決型学習などを企画することができ、魅力ある地域づくりに向けた議論を効果的に調整・促進することができる。	

＊1　この指標において「子ども」とは幼児・児童・生徒のことである。
＊2　「採用までに身に付けておいて欲しいこと」は、採用時における資質能力の目安として示した。
＊3　「充実・円熟期」の「前期」と「後期」の境目は概ね 25 年目を目安とするが、個々の教員の実態に応じて柔軟に運用してよいものとする。
＊4　指標⑦「ＩＣＴや情報の利活用」について、求められる資質能力と実態差がある場合には、技能に応じたキャリアステージを起点としつつ、可能な限り早期に自分のキャリアステージの資質能力を身に付けていくこととする。

はじめに

初心忘るべからず

『花鏡』 世阿弥

「先生」と呼ばれるようになって、ずいぶん経ちました。教師の仕事にも慣れ、「実践的指導力」がずいぶん身に付いたと思います。

しかし、「実践的指導力」を身に付けたら、それで終わり・・・というわけではありません。この研修を通して、これまでの実践を振り返るとともに、その実践的指導力を基に、次のステージ【探究・発展期】に向けて、教諭としての資質能力を高めていきましょう。

初心に戻って、一年間の研修に臨みましょう！

誰もが、誰かの、たからもの。

いいけん、
島根県

目　次

はじめに
島根県の教職員として求められる資質能力、島根県公立学校教育職員の育成指標
目次
教職経験6年目研修（教諭）の概要

教職経験6年目研修（教諭）実施要項 …… 1
目的、研修の対象者、研修期間と認定 …… 3
所属教育センター、校内の指導体制、研修内容 …… 4
提出物、提出方法及び締切日、その他 …… 8

教職経験6年目研修（教諭）様式 …… 9
教職経験 6 年目研修（教諭）についての事前調査 …… 11
様式1　課題研究構想メモ …… 12
様式2　授業づくりのプロセス構想シート …… 14
様式3　課題研究レポート …… 24
様式4　報告書 …… 26
参考様式1　課題研究レポート（中間発表用） …… 28
参考様式2　研究授業振り返りシート …… 29
参考様式3　研修発表に関するアンケート …… 30

教職経験6年目研修（教諭）年間計画 …… 31
6年目研修の目的 …… 33
校内指導体制 …… 34
研修内容 …… 35
4月 …… 36
4月～5月 …… 37
5月～1月 …… 38
5月～6月 …… 39
6月～7月 …… 40
6月～8月 …… 41
8月～11月 …… 43
8月～1月、12 月～2月 …… 44
2月 …… 45

教職経験6年目研修（教諭）授業づくり …… 47
授業づくり …… 50

授業づくりのねらいと考え方 ……51
授業づくりのプロセス（単元・題材づくり） ……52
授業づくりのプロセス構想シート（記入例） ……60
学習評価 ……70
課題研究の進め方 ……71
課題研究構想メモ（記入例）……72
課題研究構想メモ（チェック表）……73
課題研究構想発表の進め方の例……74
授業づくり②（第Ⅲ回教育センター研修） ……75
課題研究　校内中間発表の進め方の例 ……76
課題研究　校内成果発表の進め方の例 ……77
授業づくり③課題研究成果発表（第Ⅳ回教育センター研修） ……78
授業改善プランニングシート（第Ⅳ回教育センター研修）……79

研修に役立つ資料……80
教職経験6年目研修　年間予定表 ……82

教職経験６年目研修（教諭）の概要

島根県公立学校教育職員　人材育成基本方針における育成指標「探究・発展期」

およそ6年目から 15 年目までの 10 年間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

教職経験年数に応じた研修の一環として１年間の研修を実施

【目 的】

・得意分野を開発・探究していく
・児童生徒等の理解を深め、適切に対応できる方法を身に付ける
・組織の一員としての役割を理解し、同僚と協力して学校課題に対応する資質能力の充実を図る

計画等（4、５月）

各校において、島根県教職員評価システム等によって「自己目標」や「目標達成のための手立て」を計画する。※提出不要

研修内容（４月～２月）

ＯＪＴ研修

・授業づくり　［通年］
　課題研究発表　（3回）
　授業研究　（2回）
・校内授業研究会参加

Ｏｆｆ－ＪＴ研修

・教育センター研修　［ 3.5 日］
　集合研修　（ １ 日）
　オンライン研修　（ ２ 日）
　オンデマンド研修（0.5日）

報告（２月）

報告書等の作成・提出

次年度の取組

教職経験６年目研修

（教諭）

実施要項

目　次　（実施要項）

教職経験6年目研修（教諭）実施要項

目的、研修の対象者、研修期間と認定 ……3

所属教育センター、校内の指導体制、研修内容 ……4

教育センター研修期日、会場及び研修項目等……6

教育センター研修項目別の目的と内容……7

提出物、提出方法及び締切日、その他 ……8

この手引では、下表の左欄の表記を右欄の通り表記する。

島根県教育委員会	県教育委員会
島根県教育センター浜田教育センター	浜田教育センター
島根県教育センター研修情報システム	研修情報システム
校内で管理職を除いた3名以上（対象者を含む）のメンバーからなるチーム	チーム
分校、分教室、乃木校舎	分教室

教職経験6年目研修(教諭)実施要項

1　目　　的

教職経験年数に応じた研修の一環として、1年間の実践的な研修を通して、教諭としての得意分野の開発・探究を図るとともに、児童生徒等の理解を深め、同僚と協力して学校課題に対応する資質能力の充実を図る。

2　研修の対象者

(1) 公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の教諭のうち、令和5年度末に教職経験年数（以下「経験年数」という。）が5年以上の者で、教職経験6年目研修をまだ受講していない者を該当者とし、そのうち令和6年度に研修を受講する者。

(2) 経験年数の計算にあたっては島根県教職員人事異動ルールに従う。なお、県外での経験年数も含める。

(3) 当該年度において、以下に所属又は派遣されている者は、研修を延期する。学校勤務になった年に受講することとする。

ア 行政機関

学校教育（学校訪問等を通じて学力向上、授業力向上等に係る指導助言等）に係る事務に主として従事しており、県教育委員会が当該者の経験の程度を勘案して、実施する必要がないと認める者は免除することができる。

イ 在外教育施設

ウ 教員長期社会体験研修

(4) 以下の者は、研修を免除する。

ア 他の任命権者が実施する教職経験 6 年目研修に相当する研修を修了した者

イ 兵庫教育大学・島根大学等大学院派遣研修を修了した者 （学校勤務になった年に受講することもできる。）

ウ 特別な事情により、県教育委員会が定める者

3　研修期間と認定

(1) 県教育委員会が定める年度の1年間とする。

(2) 全ての研修を修了した者を研修修了と認定する。なお、研修期間については、特別な事情があった場合、8ヵ月以上の研修期間を有することとする。

※ 年度途中で対象者の研修が継続不能になるおそれがある場合、校長は所属教育センターに連絡すること。

4　所属教育センター

島根県教育センター	浜田教育センター
松江・出雲・隠岐教育事務所管内の学校の以下の教諭 〇小学校教諭 〇中学校教諭 〇義務教育学校教諭 **松江・出雲・隠岐地区の学校の以下の教諭** 〇高等学校教諭 〇特別支援学校教諭	**浜田・益田教育事務所管内の学校の以下の教諭** 〇小学校教諭 〇中学校教諭 **大田・浜田・益田地区の学校の以下の教諭** 〇高等学校教諭 〇特別支援学校教諭 ※分教室の教諭は、本校の所属教育センターに所属するものとする

5　校内の指導体制

校長は、学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行うこと。又、対象者が本研修を実施するにあたり、授業等に支障が生じないように配慮すること。

校長は、校内で管理職を除いた3名以上（受講者を含む）からなるチームを編成すること。

チームのメンバーは、校内で6年目研修対象者を支え、お互いの資質能力の向上を図ること。

6　研修内容

(1) OJT研修（日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける研修）

ア 授業づくり（通年）

［ねらい］

「身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業」に関する主題を設定し、1年間を通じて研究を深め、授業力の向上を図る。

［内容及び方法］

(ｱ) 課題研究の発表（3回）

・自らが選択した教科等の特性を考慮して、ねらいに沿った主題を決定すること。

・課題研究の構想（第Ⅰ回教育センター研修後）、中間段階（8 月～10 月）、最終段階（1月～2月）に校内の教職員の前で発表すること。

(ｲ) 授業研究（2回）

・課題研究に関連した授業及び協議を2回行うこと。

※1回目は校内構想発表後から第Ⅲ回教育センター研修までに実施し、2回目は第Ⅲ回教育センター研修後から1月中旬までに実施すること。

・「研究授業前の学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」をもって1回とする。

・管理職等を含む複数の教員で、ねらいに基づいた視点で協議を行うこと。

イ 校内授業研究会参加（1回以上）

［ねらい］

経験豊かな教諭等の研究授業の参観及び研究協議に参加し、自らの授業力の向上及び課題研究の深化・発展に資する。

［内容及び方法］

校内にて教諭等の研究授業の参観及び研究協議に参加する。

［その他］

・校内での授業研究会に参加できない場合は、市町村の教育研究会や島根県教育研究会が主催する研究大会等への参加に代えることができる。

・旅費が発生する場合は、以下にしたがって対応すること。
市町村立学校「一般旅費」　県立学校「学校管理運営費(配分ルール分)」

(2) Off−JT研修（日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける研修）

ア 教育センター研修（3.5日）

［ねらい］

・教諭としての得意分野の開発・探究を図るとともに、児童生徒等の理解を深め、同僚と協力して学校課題に対応する能力を身に付ける。

・校外等の教諭等との交流を通し、互いに学び、実践的意欲や態度を養う。

［研修方法及び研修場所］

・集合研修　（ 1 日）…… 教育センターが指定した会場

・オンライン研修　（ 2 日）…… 所属校又は校長が指定した場所

・オンデマンド研修（0.5日）…… 所属校又は校長が指定した場所

［教育センター研修期日、会場及び研修項目等］

回		期日	会場	対象者	研修項目等
第Ⅰ回	オンライン	5月 28 日（火） 又は 5 月 29 日（水）	所属校又は 校長が指定した場所	5/28 課題研究教科 算数、理科、外国語活動、外国語、図工・美術、保健体育、技術、家庭、道徳、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、自立活動、理療 5/29 課題研究教科 国語、社会、地歴、公民、数学、生活、音楽、総合的な学習（探究）の時間、特別活動、各教科等を合わせた指導、その他	○開講式 ○オリエンテーション ○授業づくり① ・学習指導要領のめざすもの ・各教科等の見方・考え方と育成する資質・能力 ・学習評価 ・1回目研究授業構想
第Ⅱ回	オンデマンド	6～8月	所属校又は 校長が指定した場所	全員	○教育の情報化とICT活用実践紹介（必ず視聴すること） ○教職員の倫理と服務 ○カリキュラム・マネジメント ○キャリア教育 ※①以外は、年度内の校内研修で実施される場合、必ずしも視聴する必要はない。
第Ⅲ回	集合（中堅研と合同で実施）	8月2日（金）	浜田教育センター	「授業づくり」グループによって期日・会場が異なる。 ※決定事項は、第Ⅰ回教育センター研修で連絡する。	○生徒指導・教育相談 ○特別支援教育 ○授業づくり② ・研究協議 ・課題研究、研究授業構想
		8月5日（月）	島根県教育センター		
		8月6日（火）			
第Ⅳ回	オンライン	2月6日（木）	所属校又は校長が指定した場所	第Ⅲ回教育センター研修と同じグループによる期日 ※臨時にグループ変更をした場合はこの限りではない。	○人権教育 ○授業づくり③ ・課題研究成果発表 ・授業づくりの振り返り ・情報交換 ○キャリアステージ「探究・発展期」の展望 ○閉講式
		2月7日（金）			

※ 各回の教育センター研修実施要項は、実施日の3週間前に研修情報システム MyPage に公開する。

※ 対象者が、教育センター研修を欠席、遅刻、早退、会場・期日の変更をする場合、管理職は所属教育センターに連絡すること。

※ 教育センター研修を欠席した場合、対象者は所属教育センターの課す補充的研修を校内において実施し、そのレポートを所属教育センターの長に提出すること。なお、レポートは管理職の指導と決裁を受けたものとする。

［教育センター研修項目別の目的と内容］

回	研修項目		目的と内容
第Ⅰ回（オンライン）	教職経験６年目研修について		教職経験６年目研修の意義や目的、内容等を理解し、研修の見通しをもつ。 （ア）研修の意義や目的等　（イ）課題研究の進め方
	授業づくり①	学習指導要領のめざすもの	学習指導要領の趣旨を理解する。 （ア）学習指導要領の趣旨の理解 （イ）個別最適な学びと協働的な学びについての理解（教育の情報化を含む）
		各教科等の見方・考え方と育成する資質・能力	各教科等の「見方・考え方」と「育成する資質・能力」を理解する。 （ア）各教科等の「見方・考え方」についての理解 （イ）各教科等で「育成する資質・能力」についての理解
		学習評価	教師の授業改善、児童生徒の学習改善のための学習評価について理解を深め、今後の実践に生かす。 （ア）学習評価の意義 （イ）学習評価計画の理解
		１回目 研究授業構想	身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業の構想力を高める。 （ア）教科等の見方・考え方を働かせる授業づくり （イ）「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくり
第Ⅱ回（オンデマンド）	教育の情報化		学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の育成や「教育情報セキュリティ」について理解するとともに、教職員に求められるICT活用指導力等の向上を目指す。 （ア）情報活用能力の育成（情報モラルを含む） （イ）教育情報セキュリティ
	ICT活用実践紹介		主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT活用（児童生徒１人１台端末）について実践事例を通して理解し、ICT活用指導力の向上を目指す。 （ア）取組の実際と課題 （イ）ICTを活用した授業改善の理解
	教職員の倫理と服務		教職員として、高い倫理観と教職に対する情熱・意欲や使命感、責任感をもつ。 （ア）教育法規等についての理解　（イ）事例から学ぶ
	カリキュラム・マネジメント		教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントについて理解し、組織の一員としての実践意欲を高める。 （ア）カリキュラム・マネジメントの意義 （イ）カリキュラム・マネジメントの進め方・組織の一員としての役割
	キャリア教育		キャリア・パスポートの目的・意義及び基本的な活用方法について理解を深め、実践力の向上を図る。 （ア）キャリア・パスポートの目的・意義 （イ）キャリア・パスポートの基本的な活用方法
第Ⅲ回（集合）	生徒指導・教育相談		生徒指導上の喫緊の課題について考え、対応する力を身に付ける。 （ア）生徒指導上の課題の理解と対応
	特別支援教育		共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について学び、児童生徒等一人一人のニーズに応じた適切な指導と必要な支援について理解を深め、実践力の向上を図る。 （ア）インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 （イ）児童生徒等の実態把握とその支援
	授業づくり②	授業研究	授業の視聴や授業についての協議を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行うための実践意欲を高める。 （ア）教科等の見方・考え方を働かせる授業の在り方 （イ）資質・能力を伸ばす授業の在り方
		課題研究、研究授業構想	授業づくり及び課題研究における成果や課題を見いだすとともに、「身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業」の構想力を高める。 （ア）課題研究の振り返りと見直し・推進・発展 （イ）単元（題材）の目標に迫る授業づくり

第Ⅳ回（オンライン）	人　権　教　育	幼児児童生徒の背景にある実態に気付く力を身に付け、学校組織の一員として学びの保障を推進する意欲を高める。 （ア）島根が目指す人権教育の理念に基づく取組の実践 （イ）同和問題をはじめとする様々な人権課題の理解
	授業づくり③	課題研究成果発表等を通して1年間の研修を振り返り、研修の成果と課題を明らかにし、次年度の授業実践について展望をもつ。 （ア）課題研究成果発表 （イ）授業づくりの振り返り （ウ）情報交換
	キャリアステージ「探究・発展期」の展望	教職経験6～10年目における教員としての資質能力の向上への展望をもつ。 （ア）1年間の振り返り （イ）めざす教師像 （ウ）キャリアステージ「探究・発展期」での具体的な取組 （エ）グループ別協議

7　提出物、提出方法及び締切日

	様式	提出物	提出方法 研修情報システム My Page	提出方法 研修情報システム 学校 Page	締切日
①	―	教職経験６年目研修についての事前調査	○		4月11日（木）
②	様式１	課題研究構想メモ	○		7月18日（木）
③	―	学習指導案（密案）	○		
④	―	第Ⅱ回教育センター研修 オンデマンド研修校内発表資料 ※発表資料はサイトに掲載し、県内の学校で活用できるようにするため、記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮すること。	○		校内発表実施後 1週間以内 最終締切 9月 19日（木）
⑤	様式3	課題研究レポート(成果発表用)	○		令和7年 1月 23日（木）
⑥	様式3	課題研究レポート(最終報告用) ※研修情報システムから接続できるサイトに掲載するので、記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮する。		○	2月 27日(木)
⑦	様式4	報告書		○	
⑧	―	学習指導案（密案）		○	

※一覧表を参照し、校長の指導、決裁を受け、締切日までにPDFファイルで提出すること。
※対象者は、①～⑤を研修情報システム MyPage の[マイキャビネット]から提出すること。
※校長は、⑥～⑧を研修情報システム学校 Page の[報告書提出]からそれぞれ別々に提出すること。
※著作権、個人情報及び肖像権等に十分配慮すること。

8　その他

研修の成果は、職員へ還元し、より多くの職員の資質能力の向上と学校の活性化につながるように努める。さらに、校内研修はもとより、県内の各種研修会等で積極的に発表することが望ましい。

教職経験６年目研修
（教諭）

様　式

目　次　（様式）

教職経験6年目研修（教諭）についての事前調査 …… 11
様式1　課題研究構想メモ …… 12
課題研究構想メモ（自立活動） …… 13
様式2　授業づくりのプロセス構想シート …… 14
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】 …… 16
授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】 …… 18
授業づくりのプロセス構想シート【自立活動】 …… 20
様式3　課題研究レポート …… 24
様式4　報告書 …… 26
参考様式1　課題研究レポート（中間発表用） …… 28
参考様式2　研究授業振り返りシート …… 29
参考様式3　研修発表に関するアンケート …… 30

≪令和６年度　教職経験６年目研修（教諭）についての事前調査≫

この調査は、6 年目研修における研修グループ・研修会場を決定するために行うものです。

このページの項目について、**「研修情報システムMyPage>各種ダウンロード>教職員研修の各種様式等をダウンロードする>教職経験6年目研修>教職経験6年目研修についての事前調査」**のリンク先サイトから回答してください。

https://kensyu.pref.shimane.lg.jp/webrsv/index_personal_training_history.php

回答〆切　令和6年4月11日（木）17:00

項　　目	留　　意　　事　　項
所属教育センター	P4を参照
校種等	リストから選択する。
学校名	分校等まで記入する 例）吉賀高等学校　　安来市立十神小学校 松江市立義務教育学校玉湯学園　　美郷町立邑智中学校 出雲市立河南中学校若松分校　　出雲養護学校大田分教室
氏名	姓と名の間は1文字空ける。
担当学年	複数学年を担当している場合は、担当している全ての学年を選択
「授業づくり」で選択する教科等	教科を選ぶことを基本とする。ただし、次の点に留意すること。 ・小学校数理枠採用者は、「算数」又は「理科（生活科）」を課題研究教科とする。 ・特別支援学級担任及び通級指導教室担当者は、「各教科等を合わせた指導」又は「自立活動」を選択することができる。 ・特別支援学校の対象者は、教科等（「各教科等を合わせた指導」「自立活動」以外）を選択することができる。その際、自身の採用教科や授業の有無等を踏まえて決定する。 ・特別支援教育担当枠採用者で特別支援学級の担任をしている者は「各教科等を合わせた指導」又は「自立活動」を選択する。
校内研究授業1回目の単元（題材）名	第Ⅰ回教育センター研修にて、この単元（題材）の教材研究を行う。 未定の場合は「未定」と回答し、第Ⅰ回教育センター研修までに決めておく。
特記事項	研修を受ける上で、教育センターに伝えておきたいこと。

様式１（教諭）　課題研究構想メモ

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

学校名（　　）個人番号・氏名（　　・　　）

教科等の見方･考え方と育成する資質･能力

研究主題

研究の動機

【学校教育目標や学校で目指す子ども像、校内研究等】

【学校や児童生徒等の実態（強み、弱み）】

研究の目的

研究仮説

研究(実践)方法

検証方法

★課題研究「校内構想発表」における協議内容、チームメンバー及び管理職からの指導・助言

様式１（教諭）　課題研究構想メモ（自立活動）

学校名（　　）個人番号・氏名（　　・　　）

児童生徒等の実態を的確に把握して指導目標を設定し、単元（題材）の目標に迫る授業ができる

自立活動の目標

研究主題

研究の動機
【学校教育目標や学校で目指す子ども像、校内研究等】

【学校や児童生徒等の実態（強み、弱み）】

研究の目的

研究仮説

研究（実践）方法

検証方法

★課題研究「校内構想発表」における協議内容、チームメンバー及び管理職からの指導・助言

様式２（教諭）　　**授業づくりのプロセス構想シート**

教科等		学年		指導者	

①学校教育目標、めざす子ども児童生徒像、研究主題

②単元（題材）名（単元を貫く問い、育成する資質・能力などにつながる名称）

③単元（題材）で育成する資質・能力	④単元（題材）の評価規準
【知識及び技能】（職業に関する教科【知識及び技術】）	【知識・技能】（職業に関する教科【知識・技術】）
【思考力、判断力、表現力等】	【思考・判断・表現】
【学びに向かう力、人間性等】	【主体的に学習に取り組む態度】

⑤見方・考え方を働かせている児童生徒の姿

（課題解決のために、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方を働かせているのか、既習の学びをどのように活用しているのか）

⑥単元（題材）で育成する資質・能力のつながり（小学校 → 中学校 → 高等学校）
⑦児童生徒の実態（単元（題材）にかかわる興味・関心、問題意識、学習前と後の資質・能力の差（違い）、重点指導内容など）
⑧児童生徒自ら問いを見いだし、主体的・対話的で深い学びを通して解決していくための手立てや支援
⑨教師の評価言（問いへの価値づけ、見方・考え方への価値づけ、学び方への価値づけ、全体共有など）

⑩指導と評価の計画

時間	目標（ねらい）・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

様式２（教諭）

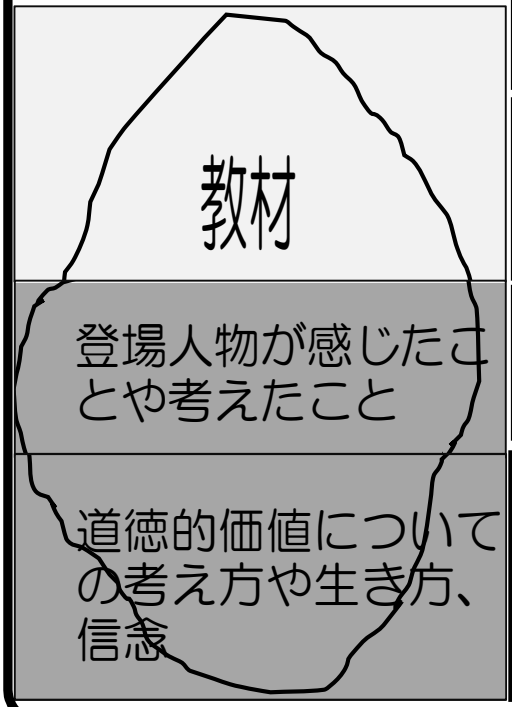
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】

教材名（出典）	主題名

本時の内容項目の見出し	
内容項目の分析・理解 （一緒に考えたいポイント）	

内容項目に係る児童生徒の実態	期待する児童生徒の考え

★氷山の三層モデル
（畿央大学　島恒生教授考案）



①道徳的に変容した登場人物は、誰か。

（A）

②（A）が変容するきっかけになった出来事は、何か。

（B）

③（A）が、変容を遂げて、どうなったか。（教材に書いてある様子）

（C）

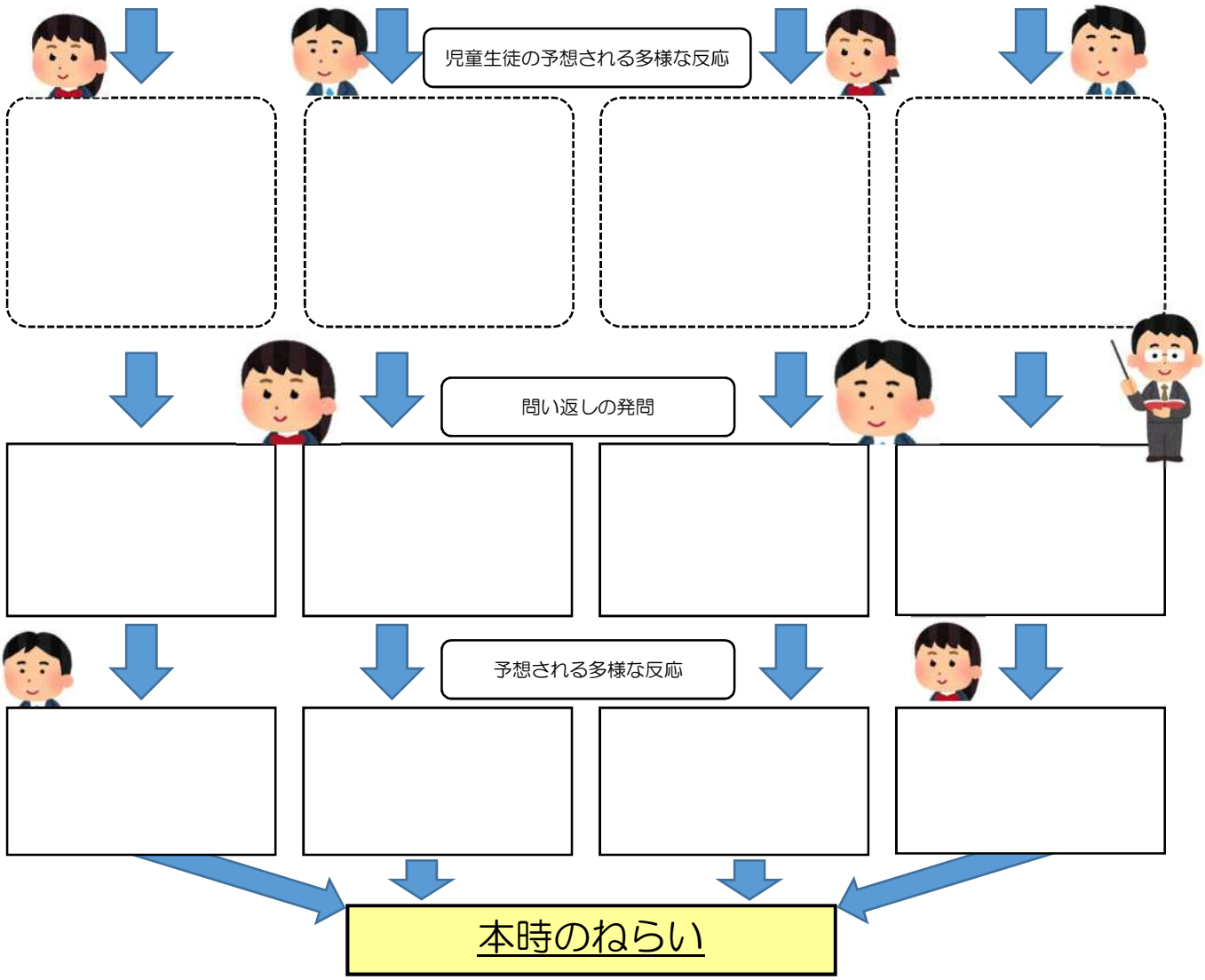
読解レベル（教材から読み取れること）

道徳的価値レベル

本時のねらいを明確にしましょう。

○授業構想

ねらいにせまるための中心発問：教材分析④



※本時における一面的な見方から多面的・多角的な見方へとつながる問い返しの発問例

①解決策の理由（動機）を問う発問	「どうしてそう思いましたか。」
②将来の結果（因果関係）を問う発問	「そうしたら、どうなると思いますか。」
③過去の経験を振り返り、将来の見通しを立てる発問	「自分も同じような経験はありませんか。」
④可逆性の原理を用いた発問	「自分がそうされてもよいですか。」
⑤普遍性の原理を用いた発問	「いつ、どこで、誰にでもそうしますか。」
⑥互恵性の原理を用いた発問	「それで皆が幸せになれますか。」
⑦その他	「～は、どんな気持ちでしょうか。」
	「～のしたことをどう思いますか。」

※道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（第２回）における岐阜大学大学院　柳沼良太准教授の配付資料より

（広島県立教育センター作成　「道徳リードシート」を改編）

様式２（教諭）　**授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】**

指導の形態		学部 学年		指導者	

①学校教育目標、目指す児童生徒像、研究主題	
②児童生徒の実態	
③単元で身に付けたい力＜自立と社会参加の視点から＞	単元名

④目標として取り扱う教科で育成したい資質・能力（指導要領から抜粋）

観点 教科名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等

⑤主体的・対話的で深い学びのための手立て

⑥児童生徒の姿で考えると？

観点 教科名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度

⑦単元計画

時間	学習活動	ねらいにせまる（又は各教科等の見方・考え方を働かせる）児童生徒の姿	評価の計画		
			知	思	主

様式２（教諭）　**授業づくりのプロセス構想シート①【自立活動】**

学部・学年		指導者	

★学校教育目標、目指す児童生徒像、研究主題

１　実態把握

（１）

子どもの姿	
本人の得意なこと、頑張っていること、好きなこと	本人の苦手なこと、困っていること
本人の願い	

（２）（１）について、「自立活動の6区分27項目」に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

（３）数年後に目指す姿

（４）①（２）で整理した姿から「何年か指導してきたが習得が難しいもの」「数年後に目指す姿との関連が弱いもの」を外す。
②　課題同士の関連を整理し、中心的な課題を導き出す。

③　中心的課題を導き出した理由（②で考えたこと）を記述する。

2　実態把握をもとに、指導目標を設定する。

3　指導目標を達成するために必要な指導項目を選定する。

	1　健康の保持	2　心理的な安定	3　人間関係の形成	4　環境の把握	5　身体の動き	6　コミュニケーション
選定された項目	□ (1)生活リズムや生活習慣の形成に関すること	□ (1)情緒の安定に関すること	□ (1)他者とのかかわりの基礎に関すること	□ (1)保有する感覚の活用に関すること	□ (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	□ (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること
	□ (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること	□ (2)状況の理解と変化への対応に関すること	□ (2)他者の意図や感情の理解に関すること	□ (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	□ (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	□ (2)言語の受容と表出に関すること
	□ (3)身体各部の状態の理解と養護に関すること	□ (3)障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	□ (3)自己の理解と行動の調整に関すること	□ (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	□ (3)日常生活に必要な基本動作に関すること	□ (3)言語の形成と活用に関すること
	□ (4)障がいの特性の理解と生活環境の調整に関すること	□	□ (4)集団への参加の基礎に関すること	□ (4)感覚統合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	□ (4)身体の移動能力に関すること	□ (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
	□ (5)健康状態の維持・改善に関すること	□	□	□ (5)認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関すること	□ (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	□ (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること
	●	●	●	●	●	●

4　具体的な指導内容の設定

指導目標を達成するために、「選定された項目」を関連づけて、具体的な指導内容を1～3つにまとめる。

	●	●	●
具体的な指導内容			
指導場面			

＊今回行う授業に下線を引く。

5　主体的に取り組むことができるようにするための手立て（今回行う授業について）

様式２（教諭）

授業づくりのプロセス構想シート②【自立活動】

学校教育目標 目指す児童生徒像 研究主題					
児童生徒名					
指導目標 （長期目標）					
指導内容					
育成すべき 資質･能力との関連					
学習や生活の中で 見られる長所やよさ 興味・関心					

児童生徒名					
単元の指導目標					
単元名					
主な活動内容					

★自立活動の具体的な指導内容を考える際の配慮事項です。指導内容を考える際に次の6点（幼稚部は7点）を意識しましょう。

ア 主体的に取り組む　イ 改善・克服の意欲を喚起　ウ 発達の進んでいる側面を更に伸ばす
エ 自ら環境と関わり合う（幼稚部のみ）　オ 自ら環境を整える　カ 自己選択・自己決定を促す
キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせる

自立活動の配慮事項についての詳しい説明は、『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』の111～118ページに掲載されています。詳しくはそちらをご覧ください。

	児童生徒名					
	単元の指導目標					
	手立て(単元を通して)					
日時	活動内容					準備物
		手立て				
		記録				
		手立て				
		記録				
		手立て				
		記録				
		手立て				
		記録				

	児童生徒名	評　価		
児童生徒の評価				
指導に対する評価	評価の視点	①活動内容	②活動量	③活動の流れ
		④教具	⑤活動の場の配置	⑥指導目標の妥当性

様式３（教諭）　　令和6年度　教職経験6年目研修　　課題研究レポート（成果発表・最終提出用）

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

学校名（　　）個人番号・氏名（　　・　　）教科等名（　　）

研究主題

１　研究の動機

２　研究の目的

３　研究仮説

４　研究の方法

５　結果

６　考察

７　成果と課題

８　参考文献等

※ 教科書等の複製の掲載は不可とする。
※ 研修情報システムから接続できるサイトに掲載するので、記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮すること。
※ ＰＤＦファイルに変換し、ファイル名を【６年研・課題研究・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出する。
ファイル名（例）６年研・課題研究・111・〇〇中・〇〇〇〇

様式４（教諭）

○ ○ ○ 第 ○ ○ 号
令和７年２月○○日

島根県教育センター所長　様

○○学校長　○○○○

令和６年度　教職経験６年目研修　報告書

１　対象者

職名	教諭	氏名		研修用 個人番号※	

※　第Ⅰ回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている３桁の番号（８桁の職員番号ではない）

２　研修の実施状況

（１）ＯＪＴ研修

ア　授業づくり

(ｱ)　課題研究の発表

発表内容等	実施日	校内外の指導助言者等
校内構想発表	月　　日	
課題研究中間発表	月　　日	
校内成果発表	月　　日	

(ｲ)　授業研究

	研修内容	実施日	校内外の指導助言者等
1回目	学習指導案審議	月　　日	
	研究授業	月　　日	
	研究協議	月　　日	
2回目	学習指導案審議	月　　日	
	研究授業	月　　日	
	研究協議	月　　日	

イ　校内授業研究会参加

参加月日	授業者名（校外研究会参加の場合は、その名称）
月　　日	

（２）Ｏｆｆ－ＪＴ研修

ア　オンデマンド研修

研修内容	研修月日	研修内容	研修月日
教育の情報化	月　　日	教職員の倫理と服務	月　　日
カリキュラム ・マネジメント	月　　日	キャリア教育	月　　日

発表内容等	実施日	校内外の指導助言者等
オンデマンド研修発表	月　　日	

※ＰＤＦファイルに変換し、ファイル名を【６年研・報告書・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出する。
ファイル名（例）６年研・報告書・111・○○中・○○○○

様式４（教諭）

記入例

島教セ第１２３号
令和〇年〇月〇〇日

「文書番号」を取得する。

島根県教育センター所長　様

〇〇学校長　〇〇〇〇

令和６年度　教職経験６年目研修　報告書

１　対象者

職名	教諭	氏名	〇〇　〇〇	研修用 個人番号※	〇〇〇

※　第Ｉ回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている３桁の番号（８桁の職員番号ではない）

２　研修の実施状況

（１）ＯＪＴ研修

ア　授業づくり

指導・助言をいただいた方の役職名やお名前を記載する

(ｱ)　課題研究の発表

発表内容等	実施日	校内外の指導助言者等
校内構想発表	５月〇日	校長、研究主任
校内中間発表	11 月〇日	学年主任
校内成果発表	１月〇日	校長、教頭

(ｲ)　授業研究

	研修内容	実施日	校内外の指導助言者等
1回目	学習指導案審議	６月〇日	学年主任、教科主任
	研究授業	６月〇日	研究主任
	研究協議	６月〇日	校長、教頭
2回目	学習指導案審議	12 月〇日	研究主任
	研究授業	12 月〇日	〇〇教育事務所〇指導主事
	研究協議	12 月〇日	〇〇教育事務所〇指導主事

イ　校内授業研究会参加

参加月日	授業者名（校外研究会参加の場合は、その名称）
７月〇日	〇〇　〇〇教諭

（２）Ｏｆｆ－ＪＴ研修

ア　オンデマンド研修

研修内容	研修月日	研修内容	研修月日
教育の情報化	７月〇日	教職員の倫理と服務	７月〇日
カリキュラム ・マネジメント	８月〇日	キャリア教育	８月〇日

発表内容等	実施日	校内外の指導助言者等
オンデマンド研修発表	８月〇日	校長、教頭、学年の教員

※ ＰＤＦファイルに変換し、ファイル名を【６年研・報告書・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出する。
ファイル名（例）６年研・報告書・111・〇〇中・〇〇〇〇

参考様式１（教諭）

令和6年度　教職経験6年目研修　課題研究レポート（中間発表用）

身に付けた資質能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業ができる

学校名（　　）個人番号・氏名（　　・　　）教科等名（　　）

研究主題

１　研究の動機

２　研究の目的

３　研究仮説

４　研究の方法

５　これまでの成果と今後の課題

※　教科書等の複製の掲載は不可とする。
※　記載内容については著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮すること。

参考様式２

研究授業振り返りシート

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業ができる

【事前】

【実態】

【目標】

【授業メモ】

【参考にしたい点】

１「身に付けた資質・能力を踏まえる」点

２「単元(題材)の目標に迫る」点

３その他

≪効果的な手立て・働きかけ≫

【事後】

【今後の授業実践や課題研究に反映したいこと】

参考様式３

研修発表に関するアンケート（６年目研修）

氏　名（　　）

本日は、私の研修発表を聞いていただきありがとうございました。今後の研究（研修）をよりよくするため、以下のアンケートにご協力ください。

①発表内容が理解できましたか？	できた　ある程度　少しだけ　まったく
②よかった点	
③改善点	
④励ましの言葉	

ご協力ありがとうございました。